

< 解法 >

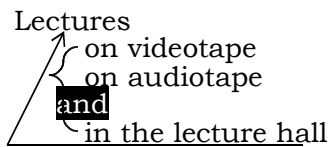
この英文のポイントは、and、but、or、than がそれぞれ何を結んでいるのかをちゃんと探し出して、訳にそれを反映させることです。

最初の **and** は、「直後に注目し～」ではいけません。だって、「ーダッシュ、ダッシュー」の挿入があるでしょ。まず、それを消去します。次に副詞 even も無視しなければなりません。なぜかという、「副詞 and 副詞」は more and more (だんだん) とか less and less (だんだん～ない)、他には loudly and clearly (大きな声でハッキリと) みたいなヤツですから、見れば分かります。だから「副詞 and 副詞」はないと思って左右対称形を探した方が良いでしょう。すると、in the lecture hall という「前置詞+名詞」の形に注目すれば良いわけです。

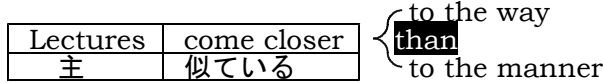
Lectures on videotape, on audiotape **and** — if delivered from detailed, antique notes — even **in the lecture hall**, come closer to the way

and の直前に同じ「前置詞+名詞」を探すと、on videotape と on audiotape が見つかります。てことは、and が結んでいるのは3つの「前置詞+名詞」で、それが形容詞として Lectures を飾っている構造が浮き上がってきますね。

Lectures **on videotape, on audiotape and** — if delivered from detailed, antique notes — even **in the lecture hall**, come closer to the way



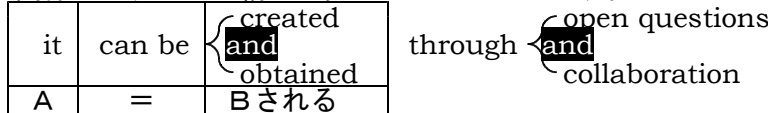
次に、接続詞 than が結ぶモノを考えます。直後に注目すると「前置詞+名詞」の to the manner が目に入ります。直前に同じ形を探すと to the way というのがあって、同じ前置詞の to と「やり方・方法」の意味の way からできあがっているの、これに間違いないと気がつきます。そして、この to が「A come closer to B than to C」の様に、前の動詞 come close とつながっているのを知らないと、ちょっと訳はできないかも知れません。これで「AはCよりもBに似ている」の意味になります。つまり、「その講義はあのやり方よりもこのやり方に近い」くらいの内容です。



the manner には in which から始まる飾りがついていて、その中にも2つの and が出てきます。これも、全く同じ形の品詞を結んでいますから、とても分かりやすいですね。

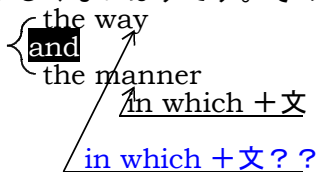


前後の関係から、こんな構造が見えてくればOKです。



open question とはNHKでやっていたハーバード大学の「白熱教室」の様に、教師の質問に対して生徒が自由に答えるやり方で、「開放型の質疑応答」と訳出します。collaboration は元々「協調」の意味ですから、教師と生徒の共同作業で真理・真実に近づこうという試みでしょうね。

さて、いま見た in which から始まる飾りは the manner を飾ってましたね。だったら、the way にも飾りがついていてもおかしくないはず。その方がきれいな左右対称形になるからね。こんな感じです。



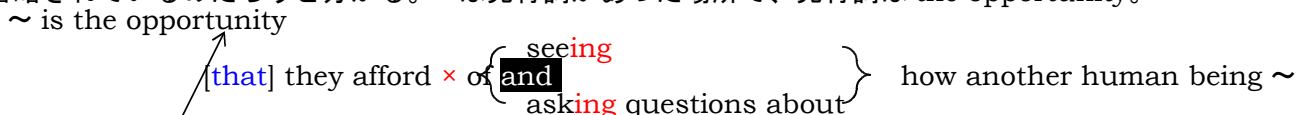
そう思ってよく見てみると、in which の省略に気がつきます！

Lectures on videotape, on audiotape **and** — if delivered from detailed, antique notes — even **in the lecture hall**, come closer to **the way** [**in which**] knowledge is stored in books or on the Internet than to **the manner** **in which** it can be created and obtained through open questions and collaboration.

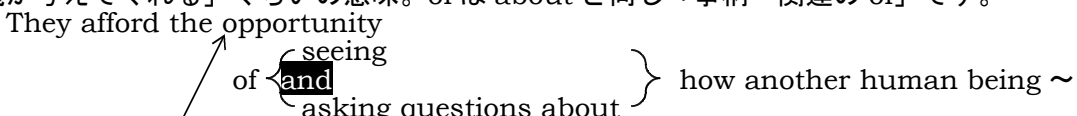
ま、関係副詞 how は先行詞 the way といっしょに使ってはいけないので、in which の省略というよりも how の省略と言う方が正しいのでしょうかね。でも、in which も how もまったく同じです。ほらね、だんだん英語の持つシンメトリックな美しさが分かってきたでしょ！

What makes such presentations worthwhile is the opportunity they afford of seeing, **and** asking questions about, how another human being perceives the world.

この **and** も直後に注目すると asking の動名詞、直前に動名詞を探すと seeing がある。でも、afford of ~ という英語はない。そこでよく見てみると、opportunity の後ろに S+V が突然出てくるので、opportunity の直後に関係代名詞 **that** が省略されているのだろうと分かる。× は先行詞があった場所で、先行詞は the opportunity。

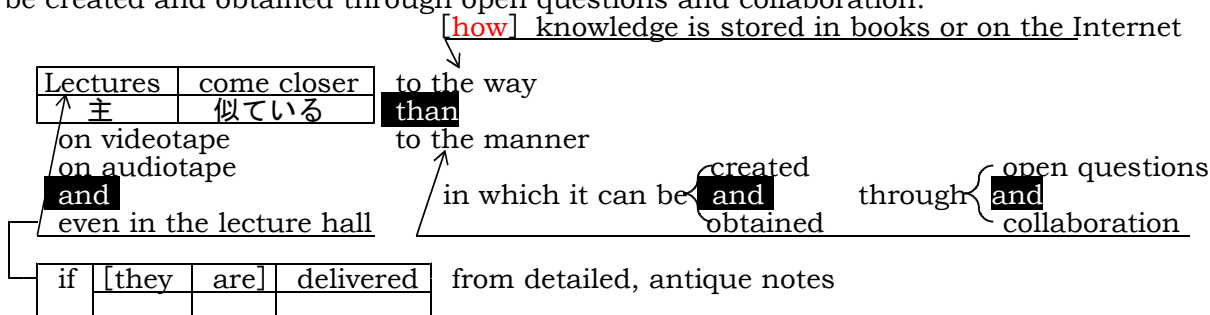


だったら、飾りの文の元の形はこうなる。「他の人間がどのように～するかを探ったり質問したりすることに関する機会を講義が与えてくれる」くらいの意味。of は about と同じ「事柄・関連の of」です。



<見取り図>

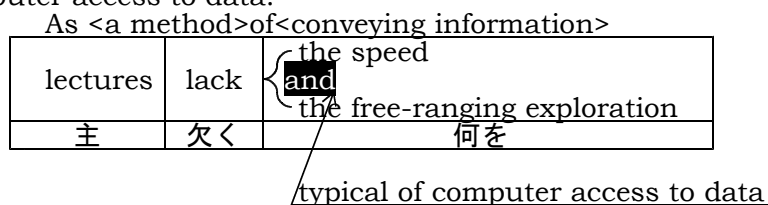
・ Lectures on videotape, on audiotape and — if delivered from detailed, antique notes — even in the lecture hall, come closer to the way knowledge is stored in books or on the Internet than to the manner in which it can be created and obtained through open questions and collaboration.



- * on videotape ~の「前置詞＋名詞」は、直前の名詞 Lectures を飾る形容詞。
- * 「ダッシュ、ダッシュ」の挿入は、おまけの説明なので無視しておいてもかまわない。ただし、ifの直後に they are が省略されている。これは「接続詞＋A＝B」の「A＝」が省略されたもの。
- * audiotape and even in the lecture hall の and が結んでいるものは3つの「前置詞＋名詞」。
- * A come closer to B で「①AはBに近づく」とか「②AはBに似ている」。ここでは②で「AはBに近い」。
- * way = manner = 「やり方・方法」
- * obtain で「手に入れる」
- * deliver a lecture で「講義をする」。決して「講義を配達する」ではないよ。
- * detailed, antique notes は「詳細な古い講義ノート」。コンマ(,)を and と同じように使っている。
- * lecture hall は「大教室」
- * open questions は「開放型質疑応答」。<解法>のコメント参照のこと。
- * collaboration は「協力」「協調」。ここでは教師と生徒が協同で真理を探す授業を言っている。

【全訳例】ビデオテープや音声テープを使った講義、あるいはまた教室で行われる講義でさえもが、それが詳細な古い講義ノートに基づいて行われたのなら、開放型の質疑応答や、教師と生徒の共同作業によって知識が生み出されたり獲得されたりするやり方よりも、本やインターネットに知識が蓄積されるやり方に近い。

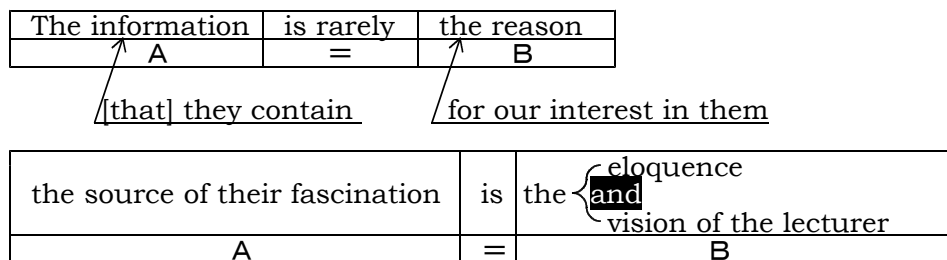
・ As a method of conveying information, lectures lack the speed and the free-ranging exploration typical of computer access to data.



- * convey は「伝達する」。
- * free-ranging exploration は「広範囲の検索」。
- * typical of A で「Aに特有の」の意味の形容詞。2語以上の飾りだから後ろに回っていて、the speed と the free-ranging exploration の両方にかかっている。

【全訳例】情報伝達の手段として、講義には、コンピュータがデータにアクセスするのに特有のスピードはなく、広範囲の検索などできない。

・ The information they contain is rarely the reason for our interest in them; the source of their fascination is the eloquence and angle of vision of the lecturer.



- * they、them はこの文のテーマの lectures を指している。テーマだから代名詞化されている。
- * fascination は「魅力」
- * the source of A で「Aの源、Aの元」
- * eloquence は「雄弁さ」
- * vision of the lecturer で「講演者の洞察力、考え方、ものの見方」

【全訳例】僕らが講義に興味を持つのは、講義に含まれている情報のせいであることは滅多にない。そうではなくて、講義の魅力の源は講演者の雄弁さであり、ものの見方なのである。

- What makes such presentations worthwhile is the opportunity they afford of seeing, and asking questions about, how another human being perceives the world.

What makes such presentations worth while	is	the opportunity
A	=	B

[that] they afford of ^{seeing} and asking questions about } how+文

<文>

another human being	perceives	the world
主	考える	何を

- * What は「こと・もの what」の関係代名詞。
- * make A worth while で「Aを価値あるモノにする」
- * afford は「与える」
- * perceive はここでは「考える」が良い。「知覚する」や「分かる」は不適當。
- * the opportunity の後ろに關係代名詞 that が省略されていて、飾りの文は元々はこんな具合。
 ■彼らは～を見るチャンスを与えてくれる。
 they afford the opportunity of seeing ~
 of は about と同じ「関連の of」で、the opportunity of A で「Aについての機会」とか「Aするチャンス」の意味になる。決して afford of という熟語があるわけではないことに注意すること。

【全訳例】 そんな講義に価値があるのは、自分以外の人間が世界をどの様に考えているのかに触れたり、それについて質問をしたりする機会を与えてくれるからである。